２０２５年１２月２日

輸入記者会見ご挨拶文

（はじめに）

理事長の磯野でございます。年末のお忙しい中、恒例の記者会見にご出席いただき、心より御礼申し上げます。会の冒頭にあたり、ひと言ご挨拶を申し上げます。

輸入記者会の皆様には、日頃より輸入洋酒業界はもとより、酒類業界全体の発展にご理解とご協力を賜り、誠にありがとうございます。特に、ボジョレーヌーヴォーの解禁日遵守や製造ロット番号削除問題など、重要な報道にご尽力いただきましたこと、この場を借りて改めて感謝申し上げます。

また、皆様が選定される「輸入洋酒業界の重大ニュース」の発表を、今年も楽しみにしております。

（一年を振り返って）

この一年を振り返りますと、酒類業界は多くの予期せぬ課題に直面した一年であったと存じます。トランプ関税や酒米価格の高騰など、業界に大きな影響を与える事象が相次ぎました。また、ニューヨークで開催された第４回国連ＮＣＤｓハイレベル会議の政治宣言も印象的で、これまでのハイレベル会合で承認された政治宣言と成果文書の実施を加速する旨が記されており、酒類業界として有害なアルコール使用の削減に向けた取り組みを一層推進すべきとの認識を新たにしました。

また、輸入業者にとって特に影響が大きかったのは、１０月からの改正有機ＪＡＳ法の本格実施です。３年間の猶予期間が設けられていましたが、十分に制度周知がされず、戸惑う業者の方も少なくありませんでした。

（輸入洋酒業界の現状）

さて、酒類業界の状況に目を向けますと、インバウンド需要もあり、外食産業の売上も対前年比で伸びているとも聞き及んでおります。

しかしながら、酒類全体の需要が低迷傾向にある中、国際情勢による資材・輸送費の高騰に円安が拍車をかけ輸入コストが高止まりしています。一方、国内では物価上昇が続き実質賃金の上昇が見られず、消費者マインドが冷え込んでおります。

１０月累計値ですが、酒類の輸入数量と金額の推移を見ますと、数量はこの数年間対前年比でマイナスが続いており、元年比では約１７ポイントの減少となっております。一方、金額は元年比で約３０ポイントの増加ですが、近年は伸び幅が鈍化

し、今年度はほぼ横ばいの状況です。輸入数量の約３割を占めるボトルワインも同様の傾向が伺えます。

このように、輸入洋酒業界は依然として厳しい状況にあり、今後の動向を注視していく必要があります。

高市新政権には、厳しい政権運営の中、補正予算を早期に成立され、生活支援と成長投資を両立させた、「強い経済」の実現を目指していただくことを期待してやみません。

（協会の活動）

ところで、当協会では、この一年間、様々な活動を展開してまいりました。

果実酒への二度の増税や円安、資材・輸送費の高騰などを踏まえ、脆弱なインポーターが多い業界の健全な経営基盤の確立と消費喚起を目指し、果実酒の減税を関係当局に要望いたしました。

また、品質保証と消費者保護の観点から、事故時の追跡や回収に不可欠な製造ロット番号が削除された輸入酒類の流通防止に向けた法的規制の導入を国税庁などへ継続的に働きかけを行っております。

さらに、国内市場の活性化に資するべく、欧州委員会農業食品生産者・業界団体の来日ミッション酒類セミナーやウクライナワイン関連企業向けウェビナーでは、日本市場の動向や特性など説明を行うほか、ドイツ農産品食品振興日本事務所とは、２０２６年に予定されているドイツワイン生産者の来日プログラムについて協議し、インド大使館とはインド産ワインに関する情報交換を行っております。

今後も、酒類業界が抱える課題に対し、他の団体と連携しながら、洋酒業界ひいては酒類業界全体の発展に貢献してまいりたいと考えております。

特に、来年３月に閣議決定が予定される第３期アルコール健康障害対策推進基本計画における、重要課題である酒類容器へのアルコール量表示の制定に積極的に関与してまいります。

（おわりに）

最後になりますが、本年のご支援・ご協力に改めて感謝申し上げます。新しい年が皆様にとって充実した素晴らしい一年となりますよう、心よりお祈り申し上げ、私の挨拶とさせていただきます。